

# 31P-0308

抗マラリア薬を志向した Yingzhaosu A 類縁二量体の合成研究

○小林 慧<sup>1</sup>, 齊藤 貴文<sup>1</sup>, 鈴木 淳<sup>2</sup>, 西谷 潔<sup>1</sup>(<sup>1</sup>東京理大薬, <sup>2</sup>東京都健安研セ)

【目的】 Artemisinin、Yingzhaosu A はそのペルオキシド構造により抗マラリア活性を持つ天然物である。現在 Artemisinin 誘導体がマラリアの治療薬として用いられているが、薬剤耐性を持つマラリア原虫の出現により新たな治療薬が必要になっている。当研究室では更に強力な活性を持つ新たな抗マラリア薬の創出を目的として Yingzhaosu A 類縁体を合成している。近年 Artemisinin の二量体が更に強い抗マラリア活性を持つことが報告されたことから、合成した類縁体を二量体化しその活性を評価する事を今回の目的とする。

【方法・結果】(-)-Carvone(1)から数工程後 Grignard 反応により炭素鎖を伸長し、中間体 **2** を合成した。**2** を光増感酸素酸化によりペルオキシド構造を持つ類縁体 **3** を得た。**3** を Grubbs 触媒を用いたクロスメタセシスにより二量体を合成した。現在、**4** の合成を検討している。